

令和5年2月13日

お集まりいただきましてありがとうございます。私の方から令和5年度の予算、組織につきまして発表させていただきたいと思っております。

まず、お手元の資料ですね、もう既にお配りしてあるかと思っておりますけれども、資料1という資料をご覧くださいませと思います。

右の方を見ていただきますと、もう事務的にもご説明してあるかと思っておりますが、一般会計の総額につきましては過去最大ということで8,371億円、5年連続で増、3年連続で過去最大を更新しておるということでございます。前年度比で言いますと2.2%増という予算になってございます。

主なポイントですが、昨年の秋に議会の承認をいただきましたプランですね、中期計画でありますプラン、この柱に沿って予算も組んでおりますけれども、一番大きなところはですね「未来を担う子どもたちを守り育てる」、これがプランでは1番目ではなかったわけです。1番目は県民の命を守るということです。両方大事だということを申し上げたわけですが、令和5年度の予算は「未来を担う子どもたちを守り育てる」、これを一番にさせていただいております。

この予算につきましては令和4年度と比べますと16%増、伸び率は一番大きな分野的には一番大きなところとなっております。

この1ポツの中に(1)から(10)まであるわけです。基本この1から6まである1ポツ「未来を担う子どもたちを守り育てる」から6ポツの「人口減少対策に取り組み選ばれる三重をつくる」、これまでここに載っておりますのは基本新規のものでございます。これ以外にも継続予算がございまして、それを先ほど申し上げた額の中に入っているわけですが、ポイントを新規のものとして抜き出しております。

1ポツの中で(10)「教育の推進」、これにつきましては後で出てきます「みえ子どもまると支援パッケージ」の中には入っておりませんが、後の(1)から(9)までは支援パッケージの中に入っているものでございます。

支援パッケージの資料をご覧くださいませでしょうか。

(資料を提示)

同様に配らせていただいております。今、お手元に見ていただいておりますA4のツインワンの資料の上に置いてある資料ですね。ここに「みえ子どもまると支援パッケージ」というものでございますけれども、これにつきましては、全部で数字が振っていないで申し訳ないですけれども、41項目項目がございまして、そのうちの26項目が新規のものでございます。最初の左側の「結婚」ですね、ここにございます線が引いてございまして、結婚サポーター制度をつくりたいと思っております。これは地域で、そしてあるいは企業でも、地域で30人ぐらいを想定しますし、企業でも50人ぐらいを想定しております。出逢いを応援してくれる方々を選定していこうというものでございます。

それから「妊娠・出産」のところですね。ちょっと線が引いていないですが、難聴児の状況把握のためのデータベースシステムの構築、これは全国初になります。三重県が新生

児で難聴の子どもを早目に見つけて、それに対応していこうというものでございます。そのためのデータベースをつくって、皆さんで情報共有していただくというものでございますけれども、これは広島も令和5年度予算で創設を考えているようでございますので、広島と並んで全国初ということになります。

それからもう一つが線を引いてございますが、市町の創意工夫で活用可能な県独自の補助制度、これは新しくつくる補助制度でございます。総合補助金というふうに通称を呼んでございますが、3億円程度の予算を用意しまして、それぞれ市町が独自に子育ての施策を考えたときに、それを補助率2分の1、あるいはその人口減少が大きいところは、もう少し補助率を上げることも考えておりますけれども、補助制度を新設してまいります。

それから、その次に線を引いています、未就学児の現物給付にかかります所得制限。これを今まで児童扶養手当基準で現物給付については所得制限を設けておりまして、市町独自に支援をしてもらっていたわけでございます。これが大体各市町合計しますと三重県内で1.3億円ほどございました。これを県の方で出ささせていただくということになりますと、市町の1.3億円は他のものに使えるわけでございまして、これを子育てに使っていただくということで、先ほどの3億と合わせて4.3億用意させていただきます。

これ以外に国が新しく制度を1.7億円、これも市町で使えるものでございますが、合計して市町には令和5年度で6億円の子育ての支援が生まれることとなります。

それから右側でございますけれども、「社会的養育・児童虐待」、国児学園の寮舎の建替えであります。

(資料を提示)

これをご覧いただきますと津にございます国児学園、さまざまな理由でご両親と暮らすことができないような子どもたちがここに入っておるわけでございます。ここの寮舎につきましては、古いもので、築54年でございます。皆さんもぜひ取材をしていただければと思いますけれども、私も見に行きましたら、これは何とか建替えなければならないということで来年度の予算で調査設計をしまして、令和11年度までかかりますけれども、総額の事業費11億円でございます。来年度は調査設計費でございますけれども、この建替えに着手いたします。

それ以外にですね、令和6年度予算では北勢にございます一次保護所ですね、これについても建替えに着手をしていきたいというふうに思っております。

主なものについて、ご説明をさせていただきました。それ以外にもいじめ対策、それから不登校児童、不登校の総合支援センターを新設するなど、子どもたちの豊かな育ちのための予算を充実させておるわけでございます。

それから県民の命を守る、先ほどの3の資料に戻っていただきますと、県民の命を守るということで、地域防災力の向上ですね。

(資料を提示)

これも資料を置かせていただいておりますけれども、津波避難対策の促進ということでございまして、津波避難タワー、まだ三重県では16から19基つくらなければいけないということでございます。これの市町の負担額の2分の1を支援しようということで、令和5年度につきましては建設3基分、それから設計2基分、それを盛り込んでおるわけでございます。

それから医師の確保、がん対策などにつきましても対応をさせていただく予定でございます。

それから津波のソフトの部分ですが、避難計画検証する市町に対しましても支援を行います。県民の命を守るというのが重要でございます。

続きまして、賑わいのある観光を取り戻すということでございます。拠点滞在型観光の推進ですとか、観光プロモーションによる発信力の強化などにつきまして予算を計上しております。

それから、農林水産業の振興につきましてでございますけれども、農業法人の合併、事業承継、あるいは黒ノリ養殖の色落ち被害の対応、アニサキスフリーな真鯖の養殖技術の開発、それからサプライチェーンの拡大につきましては、県産ブランド和牛のサプライチェーンの構築など、それから半導体産業への支援についてもしっかりとやってまいります。

半導体については、日本の中で三重県は4カ所のうちの一つであると認識しておりますので、ここで半導体ネットワークというプラットフォームをしっかりとつくっていく、これは3月につくる予定でございますけれども、それを継続して対応していきます。

(資料を提示)

それからスタートアップの予算でございます。今までもスタートアップの支援をしてきたわけですが、直接的な補助というのを設けておりませんでした。そこを設けまして、三重県でもスタートアップの方々が出てこられるように、それから、ここにございますようにさまざまな機関が一体となってスタートアップのインキュベーターをやっていくということでございます。会合もつくりましますし、それから補助金もつくりまします。

それから、信用保証などでスタートアップの企業の発信の手伝いもさせていただくところでございます。

そして、引きこもり支援についてもしっかりと対応していく予定にしております。誰もが暮らしやすい社会をつくるということで、これは、前年比8%増でございますけれども、先ほど申し上げ忘れましたが、三重の産業については、前年比11%増、そこに書いてあるとおりでございます。

人口減少対策、それにつきましては、自然減の対策はすでに先ほどのパッケージでお話ししましたけれども、これは対前年度比15%増ということになっているということでございます。社会減の対策、人口減少対策のうち、自然減と社会減がございますが、社会減対策でいうと、関西圏、中京圏への情報発信を強化していく。ここからの移住は結構多いものでございますから。

それから南部ですね。人口減少が多い南部に人口減少対策広域コーディネーター、これ4名でございますが、当初4名で考えておりますが、それらを設けてしっかりと対応していく。市長と対話をしながら、人口減少対策を講じていきたいということでございます。

(資料を提示)

ちょっと一部補足をしますと、医療費の関係でございますけれども、わかりにくかったかもしれません。現物給付、実際窓口で無料でできるものでございますけれども、これにつきましては、今まで、県としては児童扶養手当の基準で約210万程度と聞いていますけ

れども、実は制限を設けておりました、それを超える給付については、市町で独自にやっ
ていただいております。これにつきまして、県は、児童手当基準まで1,000万弱であり
ますが、そこまで支援をしますということでございます。先ほど申し上げました、1.3億
円の資金が既に市町で独自にやっている部分がほかに市町で使えるということになりま
す。県が肩代わりをするということでございます。

したがって、この部分については市町で子どもの費用に充てていただきたいという
ことで、私ども肩代わりさせていただこうと思っております。

(資料を提示)

予算につきまして、大きなところを申し上げましたが、この予算についてあえて名前を
つけるとすると、「みえ未来創造予算」という形でよろしいですか。こういった形で、私ど
もとしては名前をつけさせていただいて、令和5年度ですね、特に子どもたちの育ち、こ
れをしっかりと支援をしていこうということを考えております、予算でございます。あり
がとうございました。

予算については以上でございます。続きまして、組織について、ご説明を申し上げたい
と思います。

組織の資料をお手元にご覧いただけますでしょうか。これにつきましては、11月にもご説明を
させていただいたものでございます。ポイントだけ申し上げますと、組織改正のポイント
は2つ、県民のために働く組織であるということ、もう一つは、職員が働きやすく、達成
感を持って仕事ができる組織であるということ。それを念頭に置きまして、職員の皆さん
で議論をしていただいた結果、今回の組織改正につながっているということでございま
して、組織の資料2ページをご覧くださいますと、これが11月にお渡ししたものと基本同じ
でございます。1点だけ地域連携・交通部の順番ですね。部の順番が前に来ているとい
うそこだけが変わっています。

今回は課とそれから定数です。職員の数について見ていただきますと、3ページ、重要
課題への対応というところで、子ども政策の推進でございますけれども、真ん中あたり
にあります、3ページの真ん中の表を、子ども・福祉部の表を見ていただきますと、子ども
の育ち支援課というのがございまして、妊娠から出産、子育てに至るまで途切れない支援
を一体的に行うというところで、この課を新設いたします。それ以外に子ども政策総括
監、あるいは子ども福祉・虐待対策課というのを再編で設けることにしてございませ
ん。職員は2名の増員です。

観光振興につきましては、これも3ページの下の方の表を見ていただきますと、4課を5課
に増やします。それから、職員も4名増員をいたします。

次のページをご覧くださいますと、防対部であります。防対部については、公助と自助
共助とわかりやすく組織を分けております。公助の企画部門については、災害対策推進課
という課に再編をいたします。それから公助の実働部分は、災害即応・連携課でありま
す。それから、自助共助の部分は地域防災推進課。

公共交通につきましては、課を増やしてございます。幹線交通、空港も含めてですが、

リニア、空港などを対応します、広域交通・リニア推進課というものと、それから地域の交通バス、乗り合いタクシーの交通政策課2課で対応します。職員も増やします。

南部地域につきましては、企画機能を重視するということで課の名称につきまして、南部地域振興企画課という名称です。

それから環境行政でございますが、5課、2監体制、5ページの真ん中の表でございます。5課、2監体制で対応いたします。

デジタルにつきましては、総務部にデジタル推進局を移しておりますが、デジタル戦略企画課とデジタル改革推進課に対応します。

それから総合的な政策展開でございます。6ページをご覧くださいますと、今、雇用経済部にありました、国際部門を、国際戦略課、これは政策企画部の方に移します。必ずしも国際対応の業務は、今回のトルコの地震もそうですけれども、経済関係ばかりではないだろうということです。

それからプロモーションの推進。今まで雇用経済部と農林水産部を中心として行っておりましたけれども、全体を統括する部局を、政策企画部に設けます。7ページですね。

それから人口減少対策、これも人口減少対策課の職員を増員するということを考えています。

また、知事部局以外につきましては、企業庁で電気事業が令和4年度末で終了いたしますので、課の廃止などを行うこととしてございます。

組織については以上でございます。予算と組織それぞれ雑駁でございましたが、御説明を申し上げます。